



【2019-04-10】

遊道楽歩（雑感）

書を友に、酒を楽しみ、
人生を味わう

今週の雑感
少々極端をやるメリット

長野修二

少々極端をやるメリット

普通に生活する人からみれば私のような生き方は極端な生き方にみえるようです。

それを証明するように、私の周りの多くの人たちは、私の振舞いに対して非難ゴウゴウでしょうか。

それでも、私は自由気ままな生き方をやめられなかったというのが本当のところですよ。

もっとも、自分なりにいろいろな葛藤はあるのですが。。。

私の生き方についてなかなか理解を得られないというところが、本当のところでしょうか。

損か得かで言えば、金銭的な面は絶対に損ですよ。

しかし、自分の心の充実という点では、相当満足できるものがあったように感じています。

家族は、家族を犠牲にしている生き方といますが、それでもやめられないのが人間というものかも知れません。

たとえ、離婚されても気ままな生き方をしたでしょう。

そんななかでも極端な生き方（気ままな生き方）では、まだ上には上がっているものです。

所詮、それほど極端な生き方ではなかったのかもわかりません。まわりの人たちに言われるから、自分は極端な生き方をしていると思っていた節があります。

今年は働き方改革など人間生活の基盤を変えていくような法律が施行されますが、時間の問題も人によって大きく違ってきます。

私のように自由気ままに転職してきた人間にとって、転職の本質は仕事が面白いかどうかだけでしたから、時間にとらわれて生きてきた感覚がありません。

ただただ仕事の面白さだけにはまっていただけです。

残業代も意識してきたことがありませんし、銀行口座に給与が振り込まれて喜んでくれていたのは妻でしょうか。

そのような生活が（ソニーで）長く続くことを願っていたことですよ。

そうは問屋が卸しません。

採用してくれた社長（ソニー）が定年退職したら、途端に仕事がつまらなくなり、早々に転職。

中小企業で業務改革を狙って転職しましたが、仕事が面白かったことはありますが、ソニー時代とは比較になりませんでした。

残業も少なくソニー時代よりよい給与をもらっても、つまらない時間が多く、心躍るようなことも少なく、時間だけが過ぎ去りました。

むしろ面白い（目指すべき）仕事がないために精神的にまいっていたように思います。

お金と時間があるこういうときはお酒を飲むものです。

お酒にまつわる勉強はできますが、仕事で得る充実感とはまったく違っているのは当然でしょう。

少々極端なこと（人と違うこと）をやることのメリットは、ほかの人がやっていることを客観的にみることができることでしょうか。

時間や仕事に追われて生きている人を見てるとかわいそうになりますが、それも自分で選択していることです。

世の中は、自分でリスクを取りさえすればいくらでも変われるのですが、行動することができにくいのは、いわゆる世間の常識にとらわれてしまうからでしょう。

少々極端な生き方は、この国ではあまり受け入れられません。

仕事が面白く感じられるかどうかは、給与生活者として自分がやりたいことができるかどうかにかかっています。

その意味では、その企業における経営者の考え方と行動次第です。

結論としては、経営者に人材が少ない我が国で給与生活者がやりたいことをやれる環境はなかなかないでしょう。

それでも自分の納得感を得るために自分の時間（働き方改革のような受け身の時間ではなく）でやりぬく仕事をみつけて、実際にやってみることに意味はあるのではないのでしょうか。

世の中を少しだけ違った角度（視野）でみることができるように

なるからです。

これといった褒美はありませんが、愚痴がなく、自分の人生を自分で歩いたという充実感だけです。